

ピース

第1号

2009. 04. 24

アメリカ合衆国をふりかえって

6時間にわたってアメリカ合衆国のようすについて学習してきました。この学習の前にいづらかアメリカ合衆国のイメージをあげ、その後、地形、農業、工業、移民、多民族国家の課題などについて学習しました。以下、この単元の最後に、アメリカ合衆国の学習をふりかえってみんながまとめた文章を紹介します。

アメリカは一軒あたり何丁かの銃を持っていて、それを使って誤って人を撃ってしまった事件が起きているから、銃をなくすことをしてほしい。そうでないとアメリカではまた銃による事件が起きてしまう。州によっては生後 10 か月の男の子に銃許可証を渡したり、少年少女に銃を撃たせたりしてしまっている。

僕はアメリカはすごく自由な国だと思いました。条件が整えば移民としてやってきた誰にでも市民権が与えられたり、10 か月の子どもにも銃の許可証が出たりしたからです。そしてやっぱり世界の中心はアメリカ合衆国なんだなあとと思いました。

やっぱりアメリカはすごいなあとと思いました。デカイし、農業も工業も他国に抜きん出て1位だからです。しかしそれでも、数々の問題点に悩まされているんだなあとと思いました。国境を勝手に越えて不法に入国したり、銃を持って乱射する事件が起きたりしていました。それでも初の黒人大統領になったオバマさんや人種差別をなくす運動を指導したキング牧師など、すごい人たちもアメリカには多いです。だからいろいろな意味で、アメリカはすごいなあとと思いました。

私が授業の最初に感じていたイメージとは、かなり違っていました。まず驚いたのが、アメリカは農業や工業の分野で、生産量1位のものがたくさんあったことです。それに1歳にもならない 10 か月の男の子が銃許可証を持っているということにも驚きました。大人でも持っていない人がいると思うけど、10 か月の子どもが持っていることはすごいことだなあとと思いました。そういう許可証をアメリカではたくさんの人たちが持っていると思うので、ものすごく怖いイメージもあります。そしてアメリカにはスポーツもたくさんありました。



社会科通信『ピース』について

社会科の学習の中で、さまざまな課題について時折考える場をもちたいと思っています。私はこれを「考える社会科」と呼んでいますが、この時みんなが考えたことを社会科通信を通して発信していきたいと思っています。なお、社会科通信のタイトルを『ピース』としました。今後歴史的分野や公民的分野などで Peace（平和）について考える機会がたくさんあります。また、みんなは社会を構成する Piece（かけら、つまり一員）でもあります。これからの社会をつくっていく一員として、主体的に考えてほしいという願いも込めました。